

本学学生のSDGsに関する認知度および意識調査

桑 原 真 美

The research on our junior college student's degree of awareness and consciousness of SDGs

Mami KUWAHARA

1. はじめに

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2001年に策定されたミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標である。SDGsは「地球上の誰一人として取り残さない」という共通理念のもと、経済、社会、環境をめぐる広範な課題を解決するために17のゴールとそれを達成するための169のターゲットから構成されている。主に発展途上国をメインターゲットとしていたMDGsとは異なり、先進国を含めたすべての国々を対象にした目標が設定されている¹⁾²⁾。SDGsの目標達成には、各国政府だけではなく地方自治体、企業、アカデミアおよび市民社会そして一人ひとりに至るまですべてのひとの行動が求められている³⁾。

近年わが国では、SDGsに関してメディアでも積極的に取り上げられ、民間企業や地方自治体の取り組みを目にすることも多い。また、大学および短期大学等の研究・教育機関においてもSDGsの取り組み事例が報告されている。大学および短期大学の学生はこれからの社会を支えていく若者であり、その若者たちが世界が抱える課題に対して知識を習得し行動を起こすことは大変重要な意味を持つと考える。しかしながら本学では一部ゼミナール活動や全学共通科目にてSDGsについて取り上げてはいるものの、積極的に取り組んでい

るとは言い難い状況である。そこで本稿では本学学生を対象に、今後本学でSDGsに取り組むにあたっての基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施した。今回は筆者の所属する栄養士コース1、2年生を対象とし、SDGsに対する認知度、興味のある目標、栄養士として取り組むべきだと考える目標、日頃実施しているSDGsの取り組みに関しての調査を行ったので結果を報告する。

2. 方 法

2.1 調査方法

調査方法は質問紙による無記名自記式での調査とし、集合法による配布および回収を行った。調査期間は2021年7月から8月とした。

2.2 調査対象者

調査対象者は長崎女子短期大学生活創造学科栄養士コース所属学生（1、2年生）43名とした。

2.3 調査内容

アンケート調査の質問項目は2020年11月に長岡技術科学大学により実施された長岡市内におけるSDGsアンケート調査⁴⁾を参考に作成した。

学生のSDGsの認知度について知るため「あなたはSDGsについてどの程度ご存じですか」について「SDGsという言葉を知っている」「SDGsという言葉は聞いたことがあるが意味は知らない」「SDGsという言葉の意味は知っている」「17のゴールと169のターゲットから構成され



図1 SDGsの目標が一覧できるリーフレット⁵⁾

ることを知っている」の選択肢で尋ねた。また、SDGsを知っていると答えた者に対してSDGsという言葉はどこで知ったかを「学内のポスター」「街中のポスター」「SNS」「ネットニュース」「学外や地域のイベント」「新聞」「テレビ」「書籍および雑誌」「高校の授業」「短大の授業」「その他」の中から複数回答で尋ねた。また、SDGsに対する学生の関心度を知るため、「SDGsについてどの程度関心がありますか」について「全く関心がない」「あまり関心がない」「わからない」「関心がある」「非常に関心がある」の5件法で尋ねた。さらに、SDGsについての取り組みの実施状況を知るため「SDGs達成に向けて取り組みをしていますか」について「取り組んでおらず今後取り組みの予定はない」「今後取り組みを検討する予定である」「今後取り組む予定である」「今現在取り組んでいる」「SDGs達成に向けての取り組みが何かわからない」の選択肢から尋ねた。また、今現在取り組んでいると答えた者にはどのような取り組みを行っているか自由記述で尋ねた。

今後SDGsに関する取り組みを行うにあたって、

学生の興味関心を知るため、「SDGsの17の目標のうちあなたにとって重要だと思うものはどれですか」「SDGsの目標を達成するにあたって、栄養士として取り組むべき目標はどれだと思いますか」について「目標1 貧困をなくそう」「目標2 飢餓をゼロに」「目標3 すべての人に健康と福祉を」「目標4 質の高い教育をみんなに」「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」「目標6 安全な水とトイレを世界中に」「目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「目標8 働きがいも経済成長も」「目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「目標10 人や国の不平等をなくそう」「目標11 住み続けられるまちづくりを」「目標12 つくる責任つかう責任」「目標13 気候変動に具体的な対策を」「目標14 海の豊かさを守ろう」「目標15 陸の豊かさを守ろう」「目標16 平和と公正を全ての人に」「目標17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の中から複数回答で尋ねた。調査対象者にはSDGsの目標を知らない者も含まれることが予想されたため、参考資料としてSDGsの目標が一覧できるリーフレット（セーブ・ザ・チルドレン）⁵⁾を同時に配布し読んだ上で回答してもらった。

表 1 普段行っていることについての選択項目

選択 番号	内容
1	電気を節約しよう。電気機器を電源タップに差し込んで、使っていない時は完全に電源を切ろう。もちろん、パソコンもね。
2	請求書が来たら、銀行窓口でなく、オンラインかモバイルで支払おう。紙を使わなければ、森林を破壊しなくて済む。
3	いいね！するだけでなく、シェアしよう。女性の権利や気候変動についてソーシャルメディアでおもしろい投稿を見つけたら、ネットワークの友達にシェアしよう。
4	声を上げよう！ あなたが住んでいる町や国に、人と地球にやさしい取り組みに参加するよう呼びかけよう。私は地球温暖化対策の新しい国際ルール「パリ協定」を支持しています、と意思表示するのもいいね。あなたの国がまだ批准していなければ、[別窓] そうするように求めよう。
5	印刷はできるだけしない。覚えておきたいことをオンラインで見つけたら、どうするかって？ ノートにメモしたり、もっといいのはデジタル付箋を使って、紙を節約すること！
6	照明を消そう。テレビやコンピューターの画面は意外と明るいから、必要ない時にはそれ以外の照明を消しておこう。
7	オンライン検索すると、持続可能で環境にやさしい取り組みをしている企業が見つかるよ。そういう会社の製品を買うようにしよう。
8	オンラインでのいじめを報告しよう。掲示板やチャットルームで嫌がらせを見つけたら、その人に警告しよう。
9	ハッシュタグ#globalgoals を使って、あなたがグローバル・ゴールズ／SDGs を達成するために何をしているか、私たちに教えてね！
10	ドライヤーや乾燥機を使わずに、髪の毛や衣服を自然乾燥させよう。衣服を洗う場合には、洗濯機の容量をフルにして使おう！
11	短時間のシャワーを利用しよう。ちなみに、バスタブ入浴は5～10分のシャワーに比べて、水が何十リットルも余計に必要ななるよ。
12	肉や魚を控えめに。肉の生産には植物よりも多くの資源が使われているよ。
13	生鮮品や残り物、食べ切れない時は早めに冷凍しよう。翌日までに食べられそうにないテイクアウトやデリバリーもね。そうすれば、食べ物もお金も無駄にしなくて済むからね。
14	堆肥を作ろう。生ゴミを堆肥化すれば、気候への影響を減らすだけでなく、栄養物の再利用にもつながる。
15	紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルすれば、埋立地を増やす必要がなくなる。
16	できるだけ簡易包装の品物を買おう！
17	窓やドアの隙間をふさいでエネルギー効率を高めよう！
18	エアコンの温度を、冬は低め、夏は高めに設定しよう！
19	古い電気機器を使っていたら、省エネ型の機種や電球に取り替えよう！
20	できれば、ソーラーパネルを家に取り付けよう。電気代は確実に減るはず！
21	すすぎをやめよう。食洗器を使う場合には、あらかじめ皿を水洗いしないで！
22	買い物は地元で！ 地域の企業を支援すれば、雇用が守られるし、長距離トラックの運転も必要なくなる。
23	「訳あり品」を買おう！ 大きさや形、色が規格に「合わない」という理由だけで、捨てられてしまうような野菜や果物がたくさんあるよ。
24	レストランに行ってシーフードを注文したら必ず、「サステナブル・シーフードを使っていますか？」と聞いてみて！ あなたが海にやさしいシーフードを求めていることを、行きつけの店に知らせてあげよう。
25	サステナブル・シーフードだけを買おう！ どの海産物が安全に消費できるかを知ることができるアプリもいろいろ開発されているよ。
26	詰め替え可能なボトルやコーヒーカップを使おう。無駄がなくなるし、コーヒーショップで値引きしてもらえることも！
27	買い物にはマイバッグを持参しよう。レジ袋は断って、いつもマイバッグを持ち歩くようにしよう。
28	ナプキンを取り過ぎないこと。テイクアウトを食べるのに、大量のナプキンは要らないはず。必要な分だけ取るようにしよう。
29	ビンテージものを買おう。新品がいつも最高とは限らないよ。中古品店から掘り出し物を見つけては？
30	使わないものは寄付しよう。地元の慈善団体は、あなたが大事に使っていた衣服や本、家具に新しい命を吹き込んでくれるはず！
31	国や地方自治体のリーダーを選ぶ権利を上手に使おう。

た（図1）。

SDGs 達成へ向けた取り組みには、SDGs に関連するとは気づかずに普段から行っている事があるのではないかと予想される。そこで学生が SDGs に対する取り組みであることを意識せずに

普段行っていることについて調査することとした。

国連広報センターが制作した「持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド（改訂版）」⁶⁾に記載されている、レベル1 ソファに寝たままできること、レベル2 家にいてもでき

ること、レベル3家の外でできることの中から普段行っているものを複数回答で尋ねた。選択肢の詳細については表1に示す。

3. 結 果

SDGsの認知度に関する質問では「SDGsという言葉聞いたことがない」と答えた者と「SDGsという言葉は聞いたことがあるが意味は知らない」と答えた者がそれぞれ30.2% (n=13)、「SDGsという言葉の意味は知っている」が34.9% (n=15)、「17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている」が4.7% (n=2)であった。対象者の約60%がSDGsの意味を知らないということが明らかになった(表2)。

SDGsという言葉を知っている者のうち、SDGsをどこで知ったかとの問いに関しては、「テレビ」と答えた者が最も多く(n=19)、次いで「ネットニュース」、「短大の授業」、「高校の授業」、「SNS」という回答が得られた(表3)。SDGsへの関心度についての質問では「全く関心がない」と答えた者は7% (n=3)、「あまり関心がない」が18.6% (n=8)、「わからない」が41.9% (n=18)、「関心がある」が27.9% (n=12)、「非常に関心がある」が4.7% (n=2)であった(表4)。対象者のうちSDGsに関心がある者は約30%に留まった。そこで、SDGsに「全く関心がない」「関心がない」「わからない」と答えた者のSDGsの認知度との関連をみた。SDGsに「全く関心がない」「関心がない」「わからない」と答えた者(N=29)のうち、「SDGsという言葉聞いたことがない」と答えた者は44.8% (n=13)、「SDGsという言葉は聞いたことがあるが意味は知らない」が37.9% (n=11)、「SDGsという言葉の意味は知っている」が17.2% (n=5)、「17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている」が0.0% (n=0)であり、SDGsの意味を知らない者が80%以上を占めた(表5)。また、SDGsの認知度の質問において「SDGsという言葉聞いたことがない」と答えた者(N=13)のうちSDGsに関心がないまたはわからないと答えた者は100.0% (n=13)、「SDGsという言葉は聞

いたことがあるが意味は知らない」と答えた者(N=13)のうちSDGsに関心がある者は15.4% (n=2)関心がないまたはわからないと答えた者は84.6% (n=11)、「SDGsという言葉の意味は知っている」と答えた者(N=15)のうちSDGsに関心がある者は66.7% (n=10)、関心がないまたはわからないと答えた者は33.3% (n=5)、「17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている」と答えた者(N=2)のうちSDGsに関心がある者は100.0% (n=2)であった(表6)。

SDGs達成へ向けた取り組み状況の質問では「取り組んでおらず今後も取り組みの予定はない」と答えた者が20.9% (n=9)、「今後取り組みを検討する予定である」が9.3% (n=4)、「今後取り組む予定である」が11.6% (n=5)、「今現在取り組んでいる」が16.3% (n=7)、「SDGs達成に向けての取り組みが何かわからない」が41.9% (n=18)であった(表7)。また、SDGs達成へ向けて今現在取り組んでいる者の取り組み内容として、プラスチックトレーのリサイクル回収への協力、簡易包装の物を購入する、紙製品を使用する、ゼミでの食品ロス削減に関する取り組み、節水、節電が挙げられた(表8)。

自身にとって重要であると思うSDGsの目標については「目標16 平和と公正を全ての人に」を選択した者が対象者の76.7% (n=33)と最も多く、次いで「目標2 飢餓をゼロに」74.4% (n=32)、「目標10 人や国の不平等をなくそう」74.4% (n=32)、「目標6 安全な水とトイレを世界中に」72.1% (n=31)、「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」69.8% (n=30)が選択された。また、栄養士として取り組むべきだと思う目標は「目標2 飢餓をゼロに」を選択した者が対象者の86.0% (n=37)と最も多く、次いで「目標6 安全な水とトイレを世界中に」62.8% (n=27)、「目標3 すべての人に健康と福祉を」51.2% (n=22)、「目標12 つくる責任つかう責任」48.8% (n=21)、「目標14 海の豊かさを守ろう」46.5% (n=20)が選択された(表9)。SDGsに関する取り組みと意識せずに普段から行ってい

表 2 本学学生の SDGs の認知度 (N=43)

	n	%
SDGs という言葉を聞いたことがない	13	30.2
SDGs という言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	13	30.2
SDGs という言葉の意味は知っている	15	34.9
17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている	2	4.7

表 3 SDGs という言葉をどこで知ったか (複数回答 N=30)

	n
テレビ	19
ネットニュース	14
短大の授業	11
高校の授業	10
SNS	8
書籍及び雑誌	3
学内のポスター	2
学外や地域のイベント	2
新聞	2
街中のポスター	1
その他	0

表 4 本学学生の SDGs への関心 (N=43)

	n	%
全く関心がない	3	7.0
あまり関心がない	8	18.6
わからない	18	41.9
関心がある	12	27.9
非常に関心がある	2	4.7

表 5 SDGs への関心について「ない」または「わからない」と答えた者における SDGs の認知度 (N=29)

	n	%
SDGs という言葉を聞いたことがない	13	44.8
SDGs という言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	11	37.9
SDGs という言葉の意味は知っている	5	17.2
17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている	0	0.0

表 6 SDGs の認知度別にみた SDGs への関心度

	SDGs に関心あり		SDGs に関心なし またはわからない	
	n	%	n	%
SDGs という言葉を聞いたことがない (N=13)	0	0.0	13	100.0
SDGs という言葉は聞いたことがあるが意味は知らない (N=13)	2	15.4	11	84.6
SDGs という言葉の意味は知っている (N=15)	10	66.7	5	33.3
17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている (N=2)	2	100.0	0	0

表7 本学学生のSDGs達成へ向けた取り組み状況 (N=43)

	n	%
取り組んでおらず、今後も取り組みの予定はない	9	20.9
今後取り組みを検討する予定である	4	9.3
今後取り組む予定である	5	11.6
今現在取り組んでいる	7	16.3
SDGs達成に向けての取り組みが何かわからない	18	41.9

表8 現在学生が行っているSDGs達成のための取り組み内容 (自由記述 N=7)

	n
プラスチックトレーのリサイクル回収への協力	1
簡易包装の物を購入する	1
紙製品を使う	1
ゼミにて、余りやすい食材や料理のリメイク、アレンジを考案し、食品ロス削減に繋げる活動を実施	4
節水	1
節電	2

表9 自身にとって重要であると思う目標および栄養士として取り組むべきだと思う目標 (複数回答 N=43)

	自身にとって 重要であると思う		栄養士として 取り組むべきだと思う	
	n	%	n	%
目標1 貧困をなくそう	29	67.4	14	32.6
目標2 飢餓をゼロに	32	74.4	37	86.0
目標3 すべての人に健康と福祉を	29	67.4	22	51.2
目標4 質の高い教育をみんなに	21	48.8	11	25.6
目標5 ジェンダー平等を実現しよう	30	69.8	1	2.3
目標6 安全な水とトイレを世界中に	31	72.1	27	62.8
目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	14	32.6	2	4.7
目標8 働きがいも経済成長も	14	32.6	1	2.3
目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう	8	18.6	0	0.0
目標10 人や国の不平等をなくそう	32	74.4	1	2.3
目標11 住み続けられるまちづくりを	17	39.5	0	0.0
目標12 つくる責任つかう責任	19	44.2	21	48.8
目標13 気候変動に具体的な対策を	16	37.2	3	7.0
目標14 海の豊かさを守ろう	26	60.5	20	46.5
目標15 陸の豊かさを守ろう	21	48.8	11	25.6
目標16 平和と公正を全ての人に	33	76.7	1	2.3
目標17 パートナリシップで目標を達成しよう	12	27.9	0	0.0

表10 SDGsに関する取り組みと意識せずに普段から行っていること（複数回答 N=43）

選択番号	n	%	選択番号	n	%
1	31	72.1	17	11	18.6
2	5	11.6	18	16	25.6
3	6	14.0	19	4	37.2
4	1	2.3	20	5	9.3
5	13	30.2	21	9	11.6
6	34	79.1	22	17	20.9
7	1	2.3	23	15	39.5
8	3	7.0	24	2	34.9
9	1	2.3	25	0	4.7
10	5	11.6	26	17	0.0
11	10	23.3	27	31	39.5
12	7	16.3	28	16	72.1
13	28	65.1	29	8	37.2
14	2	4.7	30	7	18.6
15	12	27.9	31	5	16.3
16	8	72.1			

る事に関しては、選択番号6「照明を消そう。テレビやコンピューターの画面は意外と明るいから、必要ない時にはそれ以外の照明を消しておこう。」を選択した者が対象者の79.1%（n=34）と最も多く、その他50%を超えた項目は選択番号1「電気を節約しよう。電気機器を電源タップに差し込んで、使っていない時は完全に電源を切ろう。もちろん、パソコンもね。」の72.1%（n=31）、選択番号27「買い物にはマイバッグを持参しよう。レジ袋は断って、いつもマイバッグを持ち歩くようにしよう。」の72.1%（n=31）、選択番号13「生鮮品や残り物、食べ切れない時は早めに冷凍しよう。翌日までに食べられそうにないテイクアウトやデリバリーもね。そうすれば、食べ物もお金も無駄にしないで済むからね。」の65.1%（n=28）であった（表10）。

4. 考 察

本調査では本学学生のSDGsに関する認知度および意識調査を実施した。SDGsの認知度の質問では、「SDGsという言葉聞いたことがない」「SDGsという言葉聞いたことがあるが意味は知らない」と答えた者が合わせて6割を占め、SDGsの認知度は低いことが示唆された。SDGsという言葉はどこで知ったかについては「テレ

ビ」「ネットニュース」と答えた者が多く、メディアの影響が大きい。SDGsへの関心度については「全く関心がない」「関心がない」「わからない」と答えた者が合わせて約7割であり、関心を持つ学生は3割程度と少ない結果となった。その理由として考えられるのは、学生がSDGsの意味を知らないことである。「SDGsへの関心がない」または「わからない」と答えた者のうち、「SDGsという言葉聞いたことがない」または「SDGsという言葉聞いたことがあるが意味は知らない」と答えた者は約8割を占める。「SDGsという言葉聞いたことがない」と答えた者のうちSDGsに関心がある者は0%、「SDGsという言葉聞いたことがあるが意味は知らない」と答えた者のうちSDGsに関心があるものは15.4%であり、当然ではあるがSDGsの意味を知らない者は関心度も低い。一方、「SDGsという言葉の意味を知っている」と答えた者のうち、SDGsに関心のある者は66.7%、「17のゴールと169のターゲットから構成されることを知っている」と答えた者のうち、SDGsに関心のある者は100%と増加している。SDGsの意味を知っている者と知らない者でその関心度が逆転したことがわかる。

SDGs達成へ向けた取り組み状況については、今現在取り組んでいると答えた学生が16.3%であった。一方、SDGsに関する取り組みと意識せずに普段から行っていることについては、節電や買い物時のマイバック持参と答えた学生が7割を超えていた。また、栄養士コース所属学生であることが要因とも考えられるが、食品ロス削減に関連した取り組みを行っている学生も6割を超えた。このようにSDGsと意識せずともSDGsに取り組む学生が存在していることがわかる。

自身にとって重要であると思う目標と栄養士として取り組むべきだと思う目標については選択された目標にばらつきがあった。特に栄養士として取り組むべきだと思う目標に関しては、選択されている目標が少なく、全く選択されていないものもあった。SDGsの17の目標はすべて繋がっており、それぞれの目標について食の面から健康を支える栄養士として取り組めることは何かしら存在

するはずである。今回アンケートに回答した学生がSDGsの意味を知らない者が多かったことがこの結果に影響していることが考えられる。今後すべての目標の意味を深く理解することができれば、目標達成のためにどのような取り組みができるのか具体的に考えることができるのではないだろうか。

今後SDGs達成のための取り組みを行うにあたり、まずは学生のSDGsに対する関心度を高める必要がある。そのためにはSDGsとは何かを学ぶ機会を設けることが効果的であることが示唆された。SDGsの意味を学ぶことで目標達成のために自分自身に何ができるのか、栄養士としてどのような取り組みができるのか考えるきっかけにしてほしい。また、SDGsに関する取り組みは継続していかなければ意味をなさない。今現在、学生自身がSDGsの目標達成のための取り組みを知らず知らずのうちにしているという切り口からSDGsの学びを展開していくことで、構えず気軽に取り組めることをアピールできるのではないかと考える。

参考文献

- 1) 総務省. 持続可能な開発目標 (SDGs)
https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html (最終更新2021. 8)
- 2) バウンド. 60分でわかる! SDGs 超入門. 技術評論社. 2021. p. 10
- 3) 外務省国際協力局. 持続可能な開発目標 (SDGs) と日本の取組
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf
- 4) 国立大学法人長岡技術科学大学. 長岡市内におけるSDGs アンケート調査.
<https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/daigakusyokai/sdgs/graph/sdgssurvey.html> (最終更新2021. 2)
- 5) セーブ・ザ・チルドレン. 2030年までの持続可能な開発目標 SDGs
https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/SDGs_leaflet.pdf (2021. 12. 28参照)
- 6) 国連広報センター. 持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド (改訂版)
https://www.unic.or.jp/files/sdgs_201901.pdf (2019. 1)